

# 地域コンテンツの流通を促進するための 情報インフラとビジネスモデルの研究開発

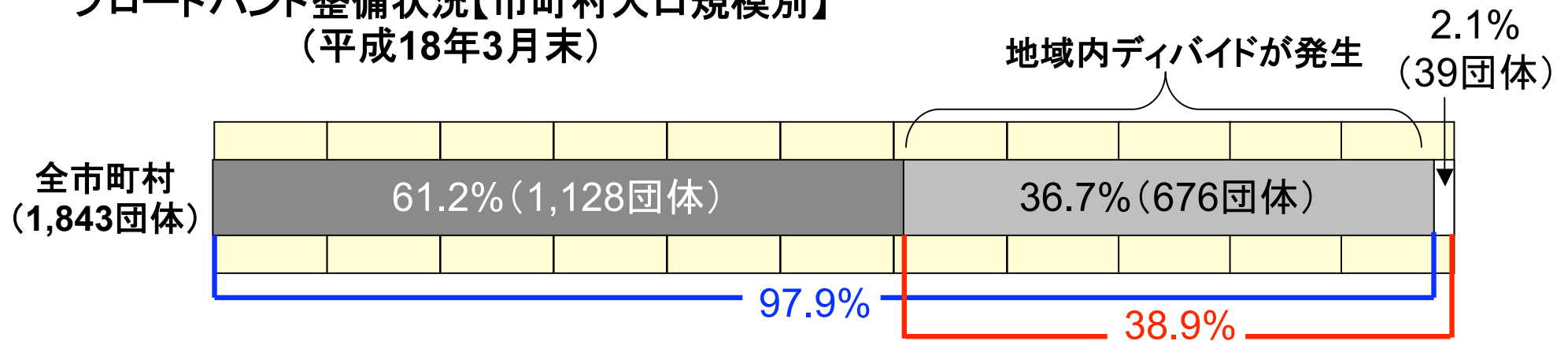
## 記者会見資料

<http://www.tereco.net/>

# ブロードバンド整備状況

- 全自治体の
  - 約98%で何らかのブロードバンドが利用可能
  - 世帯カバー率100%の自治体は約60%
  - 残りの約40%は「一部利用可能」か「何ものなし」

ブロードバンド整備状況【市町村人口規模別】  
(平成18年3月末)



■ 全ての地域で加入可能    ■ 一部の地域で加入可能    □ 全ての地域で加入不可能

2007.04.16

高知工科大学 菊池豊

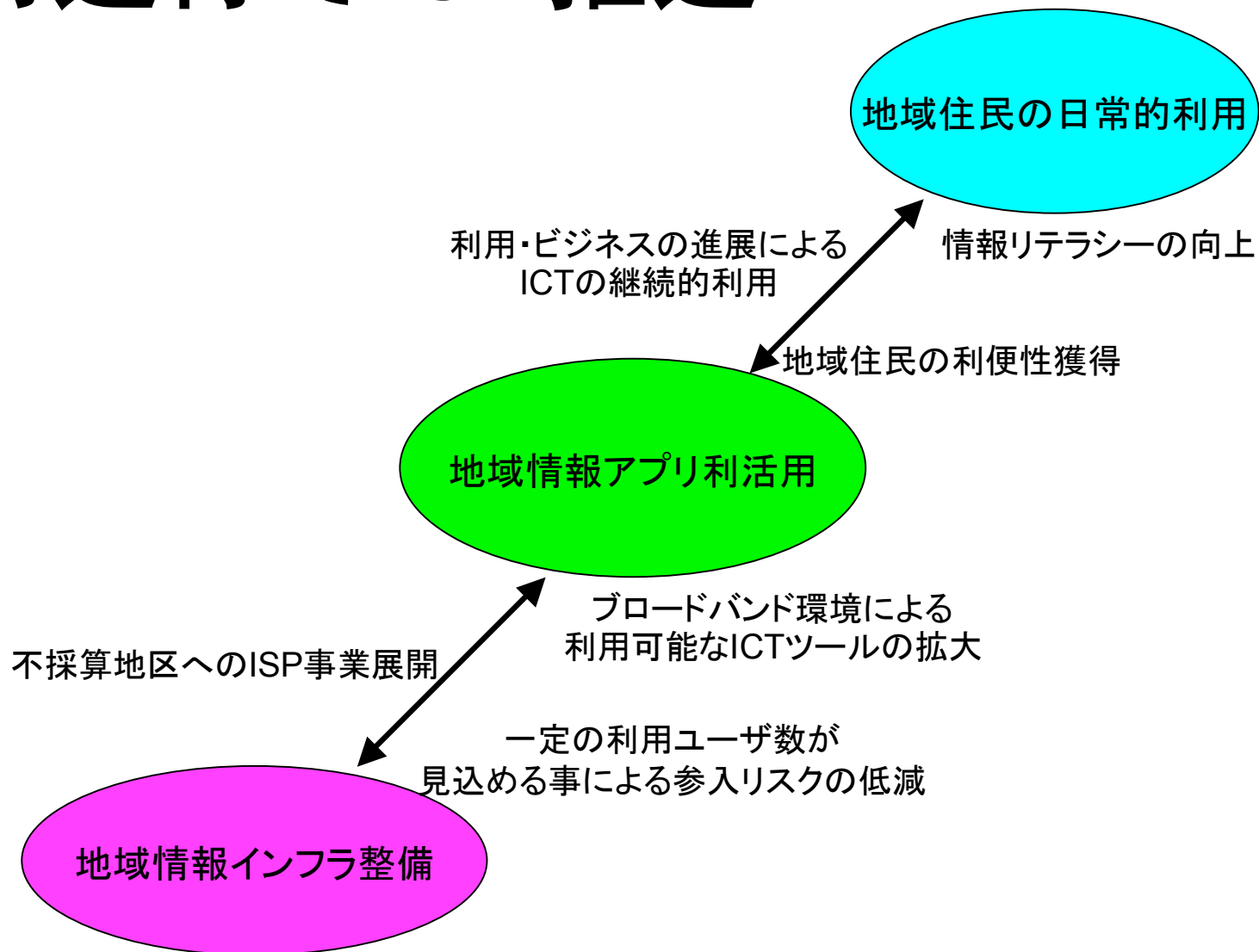
1

出所: 総務省、「次世代ブロードバンド戦略2010(案)」別添資料、2006年6月、から一部を抜粋して加筆.

# 地域情報化のポイント

- 地域情報化3すくみ問題
  - 地域情報インフラ整備
    - 不採算地域になんか出て行けるか問題
  - 地域情報アプリケーションの利活用
    - 地域で一体何を使おうってんだい問題
  - 地域情報リテラシー向上
    - 住民は上手に使いこなせるかしら問題
- 3要素を同時並行的に推進しよう

# 同時進行でICT推進



# 今回の研究開発について

- 地域でのコンテンツビジネスを考えよう
  - 地域
    - 地域でのICTの促進（3すくみ解消）
  - コンテンツ
    - 未開拓ゾーン（有望、チャレンジング）
  - ビジネス
    - 継続的な維持を可能に（地域の自立）

# 目的・手法

- 以下の主体の有機的な連携
  - コンテンツ・コンテンツホルダー
    - 自然、地域ニュース、地域住民
  - コンテンツ作成者
    - 放送事業者、出版社、プロダクション、住民
  - 広告主
    - 飲食店、商店、ネットショップ、地方公共団体
  - コンテンツ流通・伝送
    - 放送事業者、通信事業者(ISP, CSP)、データセンター
- 手法
  - 社会的な枠組みの調査
  - 技術的なアプローチ

# 狙う効果

- 放送事業者の番組製作における費用対効果の向上
- 地場の中小企業に対する広告宣伝の選択肢の増加
- 地域系ポータルサイトの販路促進
- 地域コンテンツの充実、ICTの継続的発展

# 目標

- 調査およびビジネスモデルの提示
  - 広告主の求める費用対効果
  - 魅力あるコンテンツ資源
  - コンテンツ制作にかかるコストと品質
  - 著作権等の法的要件の検討
- 放送事業向け伝送技術の提案・実証
  - インターネットを利用した安価な機構
  - エンドーエンドでの高品質・安定な伝送
  - H16～H18 SCOPE での成果の応用

# 研究代表者について

- 1963年 北海道札幌市生まれ
- 1994年 博士（工学）
  - このころより高知工科大学の創設に携わる
- 1997年 高知工科大学誕生と同時に就任
  - 工学部 情報システム工学科 助教授
- 2004年 高知工科大学 総合研究所 助教授
  - 同時に有限会社ナインレイヤーズ設立
- 2007年 准教授←助教授（呼称変更）